

研究成果情報		園芸	37	果樹	病害虫
新技術・情報名	キウイフルーツ花腐細菌病に対する環状剥皮の防除効果と果実の生育		分類	①	

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

キウイフルーツ花腐細菌病防止対策としての環状剥皮は満開 3週間から 1カ月前の、10～20mm幅処理の効果が高い（平成元年度 農業関係の試験研究成果）が、樹体への悪影響を考慮して、より狭い 5mm幅で処理しても、防除効果及び果実の生育には実用上問題となる影響は認められない。

- (1) 5mm幅処理で環状剥皮を行っても、キウイフルーツ花腐細菌病に対して十分な防除効果が認められる。
- (2) 10mm幅で環状剥皮を行っても、生育期及び収穫時の果実生育への影響は認められない。

2) 技術・情報の適用効果

キウイフルーツの減農薬、安定生産が可能となる。

3) 適用範囲

キウイフルーツ産地全域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

幼木及び樹勢の低下した樹には環状剥皮処理を行わない。

2. 具体的データ

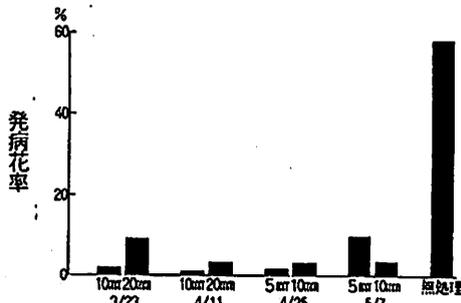


図1 剥皮時期・幅の違いによる花腐細菌病の発病抑制効果 (平成2年)

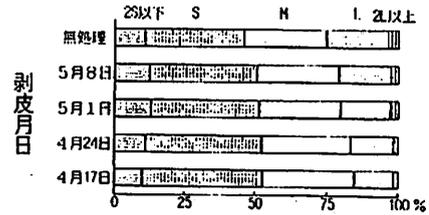


図2 各処理時期毎の果実サイズの割合 (平成2年)

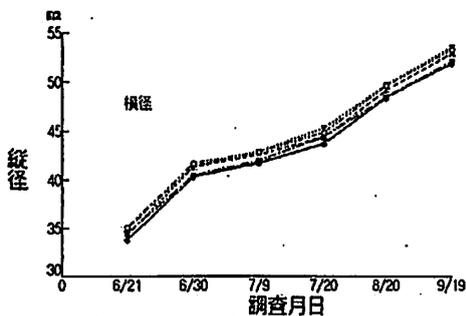


図3 剥皮処理によるキウイ果実の時期別肥大状況 (平成2年)

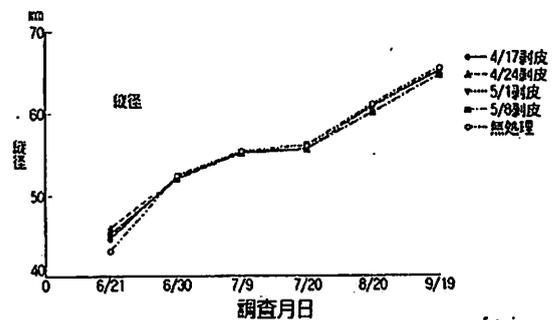


図4 剥皮処理によるキウイ果実の時期別肥大状況 (平成2年)

3. その他特記事項

担当部科室名: 生産環境研究所 病害虫部 果樹病害虫研究室

研究担当者名: 梶谷裕二・山田健一・山中正博

研究課題名: キウイフルーツ花腐細菌病に対する耕種的防除

期 間: 平成2年~平成3年 予算区分: 経常

既発表論文・資料名等: 九州病害虫研究会報 第37巻、平成2年度福岡

県農業総合試験場果樹病害虫関係試験成績書

取りまとめ責任者名: 梶谷裕二